



第4回桜区原爆絵画展を開催しました



桜区で4回目となる現幕絵画展を8月17日（木）から3日間、ブラザウエスト1Fギャラリーにて開催しました。絵画57点、写真30点、丸木美術館の「第三部・水」と「第四部・虹」、溶けたガラス・瓦などの展示を行いました。3日間で昨年来場を大きく上回る延べ313名（昨年258名）の来場がありました。

「昔のことを思い出したよ」と話すおじいさん、「この広島の写真を撮ったのは父です」と言う人もいてビックリ。また、「広島から出張で来た所で広島絵画展をやってくれるのはとても嬉しい」と語って帰った人も。

鑑賞後に書いていただいたアンケートでは原爆絵画展が初めてという人は今回も多かったです。その中からいくつかの感想を紹介いたします。

- ・偶然知ったのですが、とても訴えかけるものが強かったです（10代）
- ・いつもはまんがで見せていただいたものの実物を見たとき、恐ろし

いことを改めて知ることができました（20代）

- ・二度と原爆をさせなく世界アピールできればよいと思います（50代）
- ・テレビでは見ますが実際には初めて見ました（70代）



展示方法など昨年の課題を踏まえて改善ををし、さらに今回はビデオの上映もおこないました。

絵画展とは関係ありませんが、会員のKさんから紙パックでの手作りのおもちゃを頂き、来場した子どもたちに配布したところ大好評でした。

絵画展にご協力いただきました皆さん、感謝と共にお疲れさまでした。来年もお盆明けに開催を予定していますので、引き続きのご協力をよろしくお願いたします。

（追伸）

今回展示した「原爆と人間」の写真26「生きぬいて」に写っていた谷口稜嘩さんが8月30日に亡くなられました。ご冥福をお祈り致します。（朝日新聞8/30朝刊に掲載）

改めて考えてみよう「憲法について」

——おしゃべりカフェ報告——

9月23日、土合公民館で2回目のおしゃべりカフェを開きました。今回のテーマは「憲法」です。提案者が憲法関連の東京新聞の記事を紹介し、9条を中心に、戦争と平和、防衛、自衛隊等について意見を出し合いました。

提案者は、「縄文時代の人々は、自然との共生による穏やかで平和な集団生活が営まれていました。ところが弥生の時代になると、尖った矢じり（武器）や塀（敵対関係）が作られ、自然との共生や穏やかだった人々の内面に大きな変化が生じて社会的問題を生んだ。」と、問題を提起されました。ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を！」という精神に相通じるものです。

続いて自由な意見交換を行いました。

主な意見を次に紹介します。

*そもそも違憲な自衛隊をいつの間にか現状追認をして、憲法解釈が変えられてゆくのはおそろしい。

*9条への加憲案は、9条1、2項を残して武力放棄と見せかけた巧みな軍備論である。

*自衛隊違憲論があまり聞かれなくなった。

*自衛隊が国民に受け入れられているというが、災害救助の面においてである。本来は災害救助隊を置くべきなのにそれを自衛隊がやるようにしていること自体がおかしい。

*日本では世界でも5指に入る軍事大国とみなされている。

*戦争はすべて嫌だと思っても、悪い

奴が攻めて来たらどうするか！と議論されると、困って反論できない人が多いのではないか。

*現在の憲法論の

焦点は9条だから、今は、改憲につながる別の議論を出すべきではない。

*政府の9条改憲の狙いは軍国化。端的には、軍需産業を活性化して、そういう所に利益を誘導する目的。

*政府案の本当の狙いは、種々論点を提起して国民の目を本質論からそらさせて、国民主権を剥奪すること。



進む違憲の既成事実化

これらの意見をもとに話がすすみ、うかうかしている間に違憲の既成事実化が進んでしまっている怖さを確認しあいました。

憲法は本来権力の暴走から国民を守るために制定されるようになった、人類の叡智です。憲法が、権力を手にした人間たちの強欲や暴力から国民を守る究極の砦であることを深く理解し、私たち国民自身が常に自分たちの手で守っていかなければならないということが、はっきりして来ました。

その後、突如浮上した前原による民進党の身売りは、政治詐欺とも言うべき議会制民主主義の破壊です。小池「希望の党」への受け入れ・立候補公認を①小池に丸投げし、②民進党は一切立候補の公認を行わないとしたこと

は、護憲派の居場所を奪い、事実上自公・希望の党の独裁体制を構築するものです。米国の国際戦略研究所は「カフェ」で、日本人の生活や平和を守る砦として共有された野党統一戦線は、自由・社民・共産・民進を中核とするものでした。中でも日本部長マイケル・グリーンが今回の参議院議員選挙は三極間ではなく、護憲リベラルと改憲極右の二極間選挙です。きた小池代表に対しては、一瞬たりと

(2017年10月10日Z記)



切り抜き帳



◎ノーベル平和賞「核兵器廃絶国際キャンペーン | CAN」

ノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン | CAN」、国際運営委員の川崎哲氏は、7月に国連で採択された核兵器禁止条約の発効に向けて「今後も広島、長崎の被爆者の体験を世界につなげる活動を続けるだけでなく、被爆者からのバトンを受け継ぎたい」と話して、核被害のありのままの姿を世界へ、次の世代へと伝え続ける決意を表明しました。

また、核兵器禁止条約については「日本政府は『核保有国と非核保有国の間を取り持つ』と説明していますが、内実は保有国べったりです。でも、「日本は唯一の被爆国」。「ノーベル平和賞受賞をきっかけに、国内で核兵器禁止条約に関する議論が進むのではないか。」と期待を示して、「条約に前向きな世論を作り出し、日本政府の姿勢を変えるようにはたらきかけたい。」と話しました。

◎ヘリコプター大破

10月11日、米軍のCH53E大型輸送ヘリコプターが、沖縄県東村高江に不時着炎上しました。現場は民家からたった300メートルの地点。同ヘリコプターは放射性物質ストロンチウム90を含む回転翼安全装置と氷結探知機を装備していたので、近くの住民は内部被爆した危険があります。高江の米軍北部訓練場近くでは、12日住民が『米軍ヘリ墜落糾弾』と書いた紙を掲げながら「基地があるからこんなことが起こるんだ。」「基地をもって帰れ」「死者が出てからでは遅い。私たちは声を上げ続けなければならない。」と抗議と決意の声を上げました。今回の事故機は、6月に久米島空港へ緊急着陸したCH53Eと同一機です。そのヘリコプターの運用停止がたった4日間だけとは。

北朝鮮からの攻撃危機が喧伝され、避難訓練をしたり電車を止めたりしています。しかし、現実にはヘリコプターがいつ落ちてくるか、オスプレイがいつ墜落するかと

いう不安と共に暮らしている沖縄の現実こそ、一刻も早く解決しなければならないことです。

そして、いまや埼玉の上空をオスプレイが飛んでいます。「いつ落ちてくるか」という心配は、埼玉の現実でもあるのです。

◎北朝鮮から帰国15年

帰国15年を迎えた蓮池薫さんは、共同通信のインタビューに応じました。拉致問題をどう交渉に持っていけるかとの問いに「国際社会が圧力を高め経済的に追い詰めたとき北朝鮮にとって日朝関係はひとつの突破口になる。軍事分野に使われないような経済援助を条件に拉致問題を解決するための準備を今からしておくべきだ。」「北朝鮮は電力事情が良くない。老朽化した発電、送電設備の整備なら軍事転用は難しい。国際社会に理解を得られるこうした見返りを提示して生存者を取り戻す交渉をすべきだ」と語りました。

圧力一辺倒の政府にはぜひ参考にしてもらいたい提案ではないでしょうか。

【会の活動報告】

駅頭活動「オスプレイ配備中止の意見書を国に求める請願」署名活動

○9月13日・西浦和駅、20日・中浦和駅、27日・南与野駅

おしゃべりカフェ

○9月23日 「憲法について」

イベント

○8月17日～19日 原爆絵画展

会議

○8月27日、9月23日 運営スタッフ会議

○9月15日、10月24日 事務局会議



【会のこれからの予定】

○11月26日 14時～ 第5回桜区市民講座
「あなたに来る！裁判員の通知」（仮）
16時～ 第2回総会

桜区平和を考える会発行

ホームページは、「桜区平和」で検索！

<http://spa.g1.xrea.com/>

連絡先：090-8588-4966（今井） 090-4433-7092（小高）

090-6120-3411（佐藤）

振込口座：ゆうちょ銀行

口座番号：00270-8-104990

加入者名：桜区平和を考える会

年会費：1,000円

振込手数料はご負担ください

会員募集中！
カンパ歓迎

